向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.1　2012 年 6 月 1 日発行

向ヶ岡弥生町　News Letter　の発行

筆者は、東京大学構内の発掘調査を担当する東京大学埋蔵文化財調査室に所属しています。平成 10（1998）年、浅野地区　工学部風環境シミレーション風洞実験室地点の調査から、文京区弥生にある浅野地区、弥生地区の調査を担当することになりました。この調査から遺跡の公開、保存・修復を始め、向ヶ岡弥生町会とやり取りをするようになりました。最初の発掘調査公開の参加者は 20 名でした。その後も公開を続け今年 3 月で遺跡・史跡見学会、講演会の参加者は延べ 3,100 名を超えました。昨年は総合研究博物館で「特別展示　弥生誌―向岡記碑をめぐって」を開催し、これまでの活動で研究成果は地元に還元できていると考えていました。しかし、昨年の根津神社の例祭で町内の氏子の方々から「うちは昔どういう場所だったか、歴史を教えてほしい」と質問されました。例祭に参加したことで地元に研究成果を還元できていない現状を知ることができました。そこで、これまで活動に加え研究成果を News Letter でお知らせすることにしました。題名の「向ヶ岡弥生町」は明治 5（1872）年に新しく名付けられた町名です。町会名、町の掲示板、お神輿の提灯で見た方もいらっしゃると思います。

浅野地区は、明治 20（1887）年から昭和 16（1941）年 12 月 8 日までこの地にあった広島の浅野侯爵邸を由来とします。浅野侯爵邸敷地は昭和 16（1941）年から昭和 18（1943）年にかけて東京大学に買収され現在に至ります。町内在住の青木誠さんのお宅は浅野家の差配（土地家屋管理人）を担当していた家で、浅野家の土地管理の史料が保存されていました。平成 13（2001）年、工学部武田先端知ビルで発掘調査中、自転車でやってきた誠さんに「浅野は本来研究棟を建てる場所ではない」と言われ、自宅に連れていかれて浅野家の史料を見せていただいたのが最初で、これ以降町の歴史についていろいろと教えていただきました。聞きたいことはたくさんあったのですが昨年の 6 月、突然お亡くなりになりました。誠さん所蔵の史料は戦災を免れた貴重な史料で以前から「史料を弥生町のために史料を活用してほしい、九州の吉野ヶ里遺跡に負けない弥生博物館を大学に設置して欲しい」とおっしゃっていました。昨年 3 月、誠さんと妻の道子さん、筆者で史料をどうするか話し合い、文京ふるさと歴史館学芸員の加藤元信さんにお願いして今年の 2 月に歴史館へ史料を寄贈しました。現在史料整理中で今後、向ヶ岡弥生町の歴史が明らかになるでしょう。青木家と浅野家の関わりについて地域雑誌谷根千に誠さんのインタビュー記事が掲載されています。記事によれば誠さんの伯父、青木清太郎（慶応 3（1867）年生）は飛騨高山から上京、本郷区役所に勤めた後、明治半ばに頼まれて浅野家の差配になります。青木さんの父、藤次郎（明治 16（1883）年生）は飛騨高山の酒問屋「南部屋」で商いをしていました。しかし、大火で商売ができなくなり大正 7～8（1918～1919）年頃、兄清太郎を頼って上京、浅野家の差配を手伝うようになります。息子の誠さんは昭和 4（1929）年、向ヶ岡弥生町の生まれで早稲田大学卒業後、昭和 28（1953）年東京大学の営繕に就職（昭和 33（1958）年まで在職）。その後東京都、戸田建設で技術士として東京の再開発事業で活躍されました。誠さんは昭和 29（1954）年に東大付属病院事務部在職中の道子さんと結婚されます。道子さんによれば「藤次郎は仕事のことをあまり話さない人でした。浅野家の差配をいつまでしていたか分からないけれど、（道子さんは）父親の仕事をしばらく手手伝いました。昭和 40 年代、藤次郎は「浅野家の差配を退職した」と言っていました。戦後も貸家の管理と土地の処理が続いていたようです。」とのことでした（2012 年 5 月 28 日、道子さんにお話をうかがいました）。

誠さんと交流のあった浅野家当主の浅野長孝さんは「私の父も亡くなり昔の弥生町を知っている人がいなくなってしまった」とおっしゃっていました。しかし、古くからの住民も健在です。みなさんにお話をうかがい、これまでの研究成果と合わせて News Letter の中で伝えようと思います。

参考文献

渡辺貞幸 1979「第 1 章 遺跡の立地と考古学環境」東京大学文学部考古学研究室編、東京大学文学部発行『向ヶ岡貝塚』

谷根千工房 1998「浅野家土地家屋管理人―青木誠さんに聞く」「地主は浅野のお殿様　特集／向ヶ岡弥生町読本」『地域雑誌　谷中根津千駄木　其の五十三』

谷根千工房 2001「「地主は浅野のお殿様」補遺　芸州浅野家－十七代当主、浅野長愛さんにうかがう弥生町での日々」谷根千工房『谷中・根津・千駄木（季刊）其の六十七』

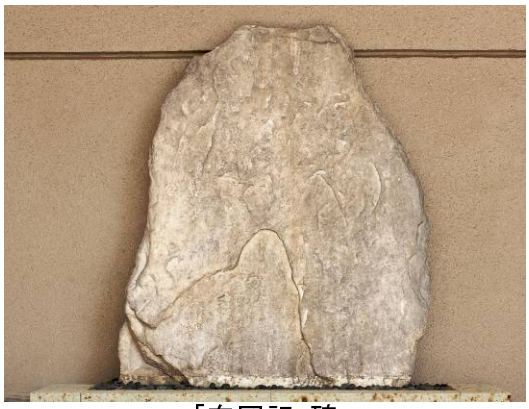
向ヶ岡弥生町と駒込邸　向ヶ岡と忍ヶ岡

「向ヶ岡弥生町」は明治 5（1872）年に水戸藩駒込邸（中屋敷）の範囲に名付けられました。現在は浅野地区（工学部等）と弥生地区（農学部・地震研究所等）、住宅地になっています。言問通り沿いの浅野地区の北西角に「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑があります。明治 17（1884）年、弥生時代の名称由来となった土器が発見されたことを記念して町会有志で建立した碑です。浅野地区には弥生時代の集落跡で国指定史跡の弥生二丁目遺跡、浅野北門裏の地下には弥生時代の墓が保存されています。現在の町並みから弥生時代の景観を想像することは難しいけれど、駒込邸の景観については史料が残っています。明暦 3（1657）年の明暦の大火で小石川邸（水戸藩上屋敷）が被災、藩政機能が駒込邸に移ります。藩主になる前（「部屋住み」といわれる）の徳川光圀は初代藩主頼房とともに駒込邸に避難、光圀は邸内の茶屋で歴史編纂事業を開始します（後の彰考館の前身）。駒込邸は「駒込別荘」と呼ばれ藩主の隠居所、藩主家族の住まいに使用されますが当時の駒込邸は「ここは木立古り、淋しい田舎の山荘であつたのであります」（福田耕二郎 1991『水戸の彰考館―学問と成果―』水戸史学選書）と記されています。文政 10（1827）年、小石川邸火災のため駒込邸に避難した部屋住みの徳川齊昭は、駒込邸を「駒込の別邸に移りぬ抑も此邸は向岡とて上野東叡山と相對峙邸を環て老杉長松圍み都下紅塵中自ら仙境をなせり公此間にありて日夕心を和漢古今の書に潜め大に得る所ありしとぞ」（吉川弘文館 1970『水戸藩史料別記上』）と記しています。『向陵彌生町舊水戸邸繪圖面』は文政 9（1826）年の墨書きから齊昭が避難した頃の邸内を描いた絵図と考えられ、邸内には表御殿の庭園、裏御殿、役所の建物、長屋などが描かれ邸内の整備が進んだことが分かります。しかし、明暦の大火以降、齊昭の代になっても駒込邸は引き続き被災時の避難場所となっていました。

「弥生時代」の由来となった町名の「弥生」は、徳川齊昭が表御殿の庭園に建立した「向岡記」碑の碑文「文政十萬梨一登勢止移布年能夜余秘能十日」（訳　文政 11 年三月十日）の「夜余秘」（やよひ）＝「弥生」からとられました。「向ヶ岡」は「忍ヶ岡」（上野の岡）の「向こう側にある岡」という地域名からとられました。不忍池周辺に「向ヶ岡」と「忍ヶ岡」に関係のある稲荷があります。「向ヶ岡」に「向岡稲荷」（駒込邸の北、現在の農学部家畜病院付近、明治時代までに移転）、「忍ヶ岡」に「忍岡稲荷」（現、花園稲荷）があります。東京大学池之端門南隣の「境稲荷神社」も岡に関連があります。鳥居の額束に「向岡　忍岡　総鎮守境稲荷神社」と彫られています。「忍ぶ岡　向ふる岡の境なる　神のやしろは松の下谷」と詠まれ二つの岡の境という立地が稲荷の名前になっています。解説板によれば建立は文明年間（1469～1487）まで遡ります。「忍ヶ岡」も古い地域名で、天台宗の学僧で歌人の堯恵は文明 19（1487）年に「忍ヶ岡」を訪れています（江幡潤 1973『文京の散歩道』株式会社三交社）。

「文明一九年正月の末、武蔵野の東の界、
　忍岡に優遊し侍。鎮座五条天神申侍。
　　おりふし枯たる茅原を焼侍り。
　　契りおきて誰れかは春のはつ草に
　　忍びの岡の露の下もえ」（堯恵『北国紀行』）

「境稲荷神社」、堯恵の歌から「向ヶ岡」も文明年間まで遡る地域名と考えられます。「向ヶ岡弥生町」は歴史のある地域名と江戸時代の碑文の組み合わせた町名でした。現在の町名から「向ヶ岡」は消えてしまいました。しかし、町会名と文京区弥生に隣接する「文京区向丘」に残っています。



「向岡記」碑

境稲荷神社の鳥居と社（台東区池之端 1-6-13）

文京区弥生の史跡

2011 年度の活動

2011 年度、文京区弥生で行った講演会、書籍等をまとめました。振り返ってみると展示、シンポジウムなどイベントの多い年で、たくさんの方を史跡に案内しました。埋蔵文化財調査室の調査は弥生地区、浅野地区の工事現場で遺跡確認の調査を行いました。調査の結果、江戸時代と明治時代以降の遺跡を確認しました。調査結果は、調査室の発行する調査研究年報で公開します。

向ヶ岡弥生町の史跡・遺跡見学会

年	月日	団体等	参加人数
2011	4.1	銃砲史学会	15
	4.29	日本石造文化学会	25
	4.29～6.26	弥生誌ワークショップ	42
	5.15	NPO 法人　たいとう歴史都市研究会	9
	5.31	NPO 法人　小石川後楽園庭園保存会	2
	6.4	八千代栗谷遺跡研究会	15
	6.9	社団法人学史会	3
	6.10	小石川後楽園ガイドクラブ・NPO 法人　東京シティガイドクラブ	18
	6.26	生越市図書館	40
	10.14	加賀百万石・百万歩の会	21
	10.9・10・15	修復のお仕事展Ⅲワークショップ「水戸徳川家ゆかりの地を巡る」	17
	11.1	新日鉄 OB 会	32
	11.2	茨城県退職校長会水戸支部	27
	11.4	朱氏、徳川ミュージアム他	10
	12.3	東京スリバチ学会	10
	12.11	歴史散歩会（埼玉県富士見市）	43
2012	12．22	NPO 法人文化財保存支援機構ボランティア	8
	1.24	日本石造文化学会研究会	9
	3.7	新荘ふるさと研究会研修会	41
			延べ人数　387 名

シンポジウム・講演会・研究会等

年	月・日	内容	会場
2011	5.7	弥生誌連続講演会　堀内秀樹・原祐一	東京大学総合研究博物館
	7.17	日本石造文化学会　第 57 回日本石造文化学会講座	東京大学埋蔵文化財調査室
	12.7	法政大学文学部考古学会月例会　原祐一「向ヶ岡弥生町の研究」	法政大学
2012	1.7・8	NPO 法人文化財保存支援機構主催シンポジウム「今、文化財が社会に出来ること」	東京大学弥生講堂
	2.5	「―遺跡の空―　竹内啓展」ギャラリートーク　野地耕一郎・原祐一・竹内啓	日本橋高島屋ギャラリーX
	2.19	飛ノ台史跡公園博物館考古学講座　原祐一「江戸の遺跡を掘る」	船橋市海神公民館
	2.26	近世考古学研究会　原祐一「水戸藩駒込邸のランドスケープアーキテクト」	國學院大学
	3.19	NPO 法人歴史資料継承機構・松戸市戸定博物館主催講演会「幕末維新の世界へようこそ」　友田昌宏「幕末の水戸藩」、西村慎太郎「1825 の残像―安島家文書への世界―」	松戸市市民会館

展示

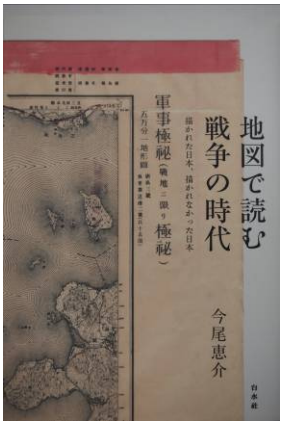
年	月・日	内容	会場
2011	4.29～6.26	「特別展示　弥生誌―向岡記碑をめぐって」	東京大学総合研究博物館
	10.9～10.16	谷中根津千駄木芸工展参加企画「修復のお仕事展Ⅲ」	谷中旧吉田屋酒店前ギャラリー
	10.8～12.27	「特別展　徳川昭武の屋敷　慶喜の住まい」	松戸市戸定博物館
	10.22～12.4	「特別展　坂道・ぶんきょう展」	文京ふるさと歴史館
2012	2.1～2.20	「―遺跡の空―　竹内啓展」	日本橋高島屋ギャラリーX

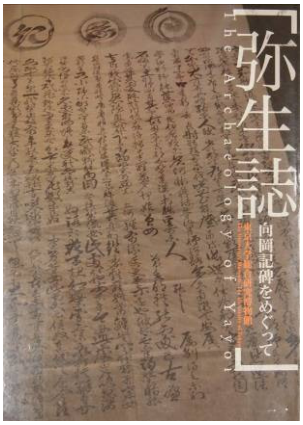
資料調査等

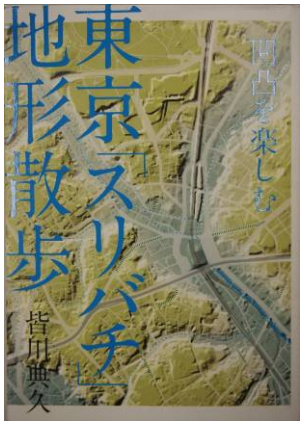
年	月・日	内容
2011	9.17・9.18	根津神社祭礼参加
	12.31	茨城県久慈郡大子町、徳川斉昭　月居峰歌碑調査
	1.14～	茨城県立歴史館で水戸藩関連文書の調査再開（継続中）
2012	2	青木誠氏所蔵文書、文京ふるさと歴史館へ寄贈
	3.10	大子町水戸藩関連史料調査
	3.11	第 45 回奥久慈湯の里大子マラソン大会参加

「向ヶ岡弥生町」を取り上げた書籍

紹介する書籍は 2011 年から 2112 年にかけて刊行されたものです。『弥生誌―向岡記碑をめぐって』は東京大学総合研究博物館で開催された特別展の図録です。題名の通り向ヶ岡弥生町の歴史と町名由来となった徳川齊昭建立「向岡記」碑をテーマに展示を行いました。他の書籍はこれまで注目されていなかった水戸藩駒込邸と明治時代の射的場を取り上げています。







鈴木信子執筆・校正　岡本哲志監修 2011 年『太陽の地図釣 006　古地図で歩く江戸城・大名屋敷』株式会社平凡社発行
　水戸藩江戸屋敷（小石川邸（上屋敷）・駒込邸（中屋敷）・小梅邸（下屋敷）について
　定価　1,200 円税込

黒田涼著 2011 年『祥伝社新書 240　ヴィジュアル版　江戸の大名屋敷を歩く』祥伝社発行
　水戸藩駒込邸と「向岡記」碑の紹介
　定価　1,155 円税込

今尾啓介著 2011 年『地図で読む戦争の時代　描かれた日本、描かれなかった日本』白水社発行
　警視庁射的場について
　定価　1,800 円+税

堀内秀樹・西秋良宏 2011 年『弥生誌―向岡記碑をめぐって』東京大学総合研究博物館発行
　2011 年の特別展図録　東京大学赤門横コミュニケーションセンターで販売中
　定価　1,000 円税込

皆川典久著 2012 年『凹凸を楽しむ東京「スリバチ」地形散歩』洋泉社発行
　警視庁射的場について　毎日新聞 2012 年 2 月 25 日に書評掲載
　定価　2,200 円+税

NPO 法人文化財保存支援機構発行 2012 年『NPO 法人文化財保存支援機構主催シンポジウム「今、文化財が社会に出来ること」実施報告書』
　原祐一・石原道知「「甦った向ヶ岡弥生町の歴史」～地域史研究と史跡・遺跡の保存活用の意義～」掲載
　問い合わせ：NPO 法人文化財保存支援機構　Tel：03-3821-3264　Fax：03-3820-3265

ホームページ・ブログ

暗渠さんぽ　http://kaeru.moe-nifty.com/ankyo/
スリバチブログ　東京スリバチ学会の広報ブログ　http://blog.livedoor.jp/suribachi/
谷根千ウロウロ　http://yanesen-urouro.bakyung.com/
東京大学埋蔵文化財調査室ホームページ　http://www.aru.u-tokyo.ac.jp/

町会のお神輿と「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑
2012 年 9 月 17 日撮影

向ヶ岡弥生町
News Letter
VOL.1　2012 年 6 月 1 日発行
発行　原　祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）
連絡先　〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1
東京大学埋蔵文化財調査室
電話　03-5454-8421
メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp